

学校法人天理大学

平成26年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科の名称および入学定員と学生数

【天理大学】

平成26年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
人間学部	宗教学科	50	200	183
	人間関係学科	80	320	358
	計	130	520	541
文学部	国文学国語学科	40	160	179
	歴史文化学科	50	200	212
	計	90	360	391
国際学部	外国語学科	170	680	643
	地域文化学科	180	720	766
	計	350	1,400	1,409
国際文化学部	アジア学科	募集停止	—	9
	ヨーロッパ・アメリカ学科	募集停止	—	12
	計	募集停止	—	21
体育学部	体育学科	200	800	883
総合計		770	3,080	3,245

【天理大学大学院】

平成26年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
臨床人間学研究科		8	16	18

【天理高等学校】

平成26年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
全日制課程（第一部）	普通科	※ 520	1,560	1,217
定時制課程（第二部）	普通科	※ 144	576	396
総合計		664	2,136	1,613

※全日制課程の募集人員は440名、定時制課程の募集人員は108名

【天理中学校】【天理小学校】【天理幼稚園】

平成26年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	収容定員	学生数
天理中学校		200	600	557
天理小学校		※ 125	750	522
天理幼稚園		50	200	119

※募集人員は約110名

以上、大学から幼稚園までの学生数の総計： 6, 074名

(2) 役員・教職員の人数

平成26年5月1日現在

部 門	役 員	教 員		職 員		計
		専任	兼任	専任	兼任	
法人	16			32	23	71
天理大学		143	191	93	66	493
天理図書館				36	16	52
おやさと研究所		8		1	4	13
天理参考館				24	4	28
天理高等学校(第一部)		79	6	28	93	206
天理高等学校(第二部)		30	3	22	48	103
天理中学校		34	3	5	20	62
天理小学校		26	1	5	2	34
天理幼稚園		14		2	1	17
合 計	16	334	204	248	277	1,079

2. 事業の概要

本法人においては、「陽気ぐらし世界」の実現に寄与できる人材、すなわち「よふぼく」の育成を目指す「信条教育」を核とする学校経営に努めてまいりました。

毎年実施しております「信条教育講習会」では、講師に中山慶純本部員を迎えて全教職員を対象として三回に分けて実施しました。また、おつとめについての基本的理解を深めることを目的として、小中高の教義科担当教員を中心に「おつとめ勉強会」を毎月開催し、教祖 130 年祭へ向けての教員自身の成人の一助となるよう努めました。

また、前年度天理高等学校第一部・同第二部・天理中学校・天理小学校の各学校で「いじめ防止基本方針」を策定しましたが、更なる危機管理体制の構築を意図して学校法人天理大学危機管理委員会規程を改定し、その専門部会として「いじめ問題専門委員会」を設置しました。その中で検討・制作されたマニュアル「いじめ対応の留意点」を管内各学校に配布するなど、予防的対策と事象発生後の対応の充実を図りました。人権教育推進研修会でも、本年度はいじめをテーマとし、全教職員が研鑽を行いました。

加えて、天理スポーツ指導者講習会を、管内各学校のスポーツクラブ指導者・関係者を対象に実施しました。本法人理事長が「天理スポーツに期待されるもの」と題して講演を行い、天理スポーツの目指すべき方向性を改めて確認しました。

各施設で自主的な研修会を各種実施していますが、法人としても、新任者研修会、現職研修会、公開授業研究会等を実施し、教職員の資質の向上を目指しました。

一方、平成 14 年度、次いで 18 年度に改革が行われて以降大きな改編がなかった事務機構について、法人と大学との一層の一体化と効率化を目指す上から改めて業務分担を見直しました。法人にあった広報部を大学に移管して入試広報部の下に置き、大学に庶務部を設けて会計処理の窓口を庶務部会計課へ、人事関係の窓口は庶務部庶務課の所管に、更には、情報センターを情報システム課として大学教育支援部に移し、大学以外の情報業務を法人総務部が分掌するなど、大きく機構の改革を行いました。また、業務の対象が重なる部を併せることで部の単位を拡大し、改めて課を設けて部内での連携を図ることにし、各課に課長を置き、担当課長制を廃止しました。

また、学校経営をめぐる厳しい環境下にある本法人の財政基盤強化のために設立した事業会社「(株)キャンパスサポート天理」は、引き続き「施設管理業務」、「物品納入サポート」及び「損害保険・生命保険代理店業務」を中心にした活動をしており、天理大学のイブニングカレッジの運営等も所期の成果を挙げております。新たに、機密文書の安全な廃棄に加えてその他の産業廃棄物の処理業務にも関わり、大学印刷室業務をアウトソーシングして新たに設置したドキュメントセンターの起ち上げに関わるなど、コスト削減に貢献する施策に積極的に取り組みました。

施設・設備面では、天理幼稚園の通園バス買い替え、天理小学校の東トイレ改修（二次）、天理中学校の PC 教室更新・西トイレの改修・南側フェンスの改修、天理高等学校本館 1 階の女子トイレの改修・陽心寮 5 階 6 階の小便器取り替え、そして天理大学では PC 教室の設備の入れ替え・情報ライブラリーの改修及び図書情報システム入れ替え等を行い、それぞれの教育環境の改善に努めました。

その他、本法人教職員が得た荣誉として、天理中学校の古賀正成教諭が平成 27 年 1 月に平成 26 年度文部科学大臣優秀教職員表彰を受けました。（奈良県からは 10 名）

以下、平成 26 年度の各施設の主な事業内容を報告いたします。

【天理大学】

本学は、平成 27 年度に創立 90 周年を迎えます。そこで、創立記念式典をはじめ、学部主催によるシンポジウムやフォーラム、附属施設での記念展といった各種記念行事の開催に向けて、8 月に

「天理大学創立 90 周年記念準備委員会」を立ち上げました。

<大学改革>

平成 27 年 4 月、大学院に「体育学研究科体育学専攻」を、また国際学部外国語学科に「スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻」を新設すべく、文部科学省へ認可申請と届出の手続きを行い認可を受けました。

平成 23 年度から平成 25 年度までに自己点検評価委員会で取りまとめた内容をもとに、平成 27 年度に大学評価を受けるための最終報告書を作成し、3 月下旬に大学基準協会へ提出しました。

<教育・研究>

キャリア教育を推進するため、総合教育科目にキャリア科目群を設け、平成 27 年度新入生から適用すべく、新しいカリキュラムの策定を行いました。

科学研究費助成事業の採択件数は、継続分を含めて研究代表者分は過去最高の 26 件（転出者を除く）、研究分担者分は 28 件、研究成果公開促進費（学術図書）分は 3 件（平成 26 年度採択分 2 件、平成 25 年度繰り越し分 1 件）でした。

F D（Faculty Development）活動では、「学生による授業評価」アンケートに授業外学修時間の設問を新たに加え、アンケート結果を踏まえての振り返りとして「リフレクションペーパー」の提出を専任・非常勤の全教員に課しました。また、T A 制度を確立し、規程を整備しました。

文部科学省による「平成 26 年度私立大学等改革総合支援事業」の補助金を獲得し、情報ライブラリーに「co-learning」というアクティブラーニングエリアを開設、学生が主体的に学修する場を提供しました。また、情報ライブラリー分室（体育学部）を拡張し、座席数を増設しました。

教員免許状更新講習は、奈良教育大学が開講申請者となり、本学は協力校として、和之内キャンパスで 8 月 26 日に「学校教育の諸課題とカウンセリング」、8 月 27 日に「古文を面白くさせる『読み』」と「英語の多様性と国際性：英語成立の過程と世界の英語としての音声学」、体育学部キャンパスで 8 月 25 日に「保健体育科における教科指導」の選択領域 4 講座を開講しました。

<学生支援>

信仰フォーラム講演会を、6 月 25 日には永関慶重氏（ながせきクリニック理事長）に「医学的見地からみた信仰的意義—何故、私は信仰するのか？」、12 月 4 日には小山雄輝氏（読売巨人軍投手）に「野球を通じて学んだこと」のテーマで開催し、多くの教職員や学生が聴講しました。

薬物乱用防止及び交通マナー講習会を 6 月 17 日に実施し、各クラブの役員が薬物乱用防止 DVD を視聴し、天理警察署交通課による交通マナーについての指導を受けました。また、事故防止講習会を 7 月 3 日・4 日の 2 回に分けて開催し、看護師による熱中症予防対策についての説明と、ミニアンキッドを用いての心肺蘇生法実技や A E D（自動体外式除細動器）使用についての講習を行い、各クラブ役員など多数の学生が受講しました。

<災害復興支援>

4 月 22 日、本学がこれまで取り組んできた東日本大震災復興支援活動に対して、厚生労働大臣から感謝状が授与されました。

東日本大震災復興支援プロジェクトチームが、継続して宮城県と福島県で復興支援ボランティア活動を実施しました。8 月 1 日～4 日までの日程で、宮城県では七ヶ浜町において、菖蒲田浜子供会と子育て支援センターの未就園児との交流活動および海浜清掃の作業を行いました。参加者は本学学生 27 名に加え、ニューヨーク分校から 8 名、パリ分校から 2 名、教職員 5 名の計 42 名でした。また、8 月 29 日～9 月 1 日までの日程で、福島県南相馬市といわき市の仮設住宅においてサロンを

開催し、被災された方々への傾聴ボランティアを中心とした交流を行いました。参加者は本学学生 22 名と教職員 9 名の計 31 名でした。その後、10 月 9 日に学内で報告会を開催しました。

<エコキャンパス関係>

省エネシール<冷暖房の設定温度（夏は 28℃以下、冬は 19℃以下）>を作成し、エアコンのスイッチ板等に貼付して省エネを喚起するとともに、夏期にはクールビズ励行期間を設けて省エネ活動を推進しました。また（株）キャンパスサポート天理の協力を得て、リサイクルができ、機密性の高い使用済み書類の溶解処理を春と秋の 2 回にわたり実施しました。

学生の環境ボランティア「エコレンジャー」の募集を行い、11 名の学生の参加を得て活動しました。エコレンジャーと学生自治会とが協同してペットボトルのキャップを回収するエコキャップ運動を進め、累計約 28 万個のキャップを回収しました。

大和農園（株）の協力を得て、緑陰効果を目的としたゴーヤによるグリーンカーテンを、4 号棟学生ホール前と体育学部総合体育館前に設置しました。

<国際交流>

学術交流は 6 月 9 日にコロンビア・バジェ大学、6 月 24 日に台湾・国立台湾大学文学院、8 月 14 日にタイ・マハーサーラカム大学、12 月 11 日にブラジル・パラナ連邦大学、3 月 20 日にオーストラリア・キャンベラ大学との協定を締結しました。これにより海外交流協定校は 21 カ国（地域）42 大学となりました。

学生交流では、協定校から 53 名の短期（交換）留学生を受け入れ、本学からは交換留学生として 48 名、認定留学生として 28 名の計 76 名の学生を派遣しました。また、海外インターンシップ制度によりアメリカへ 11 名（ニューヨーク 4 名、サンフランシスコ 3 名、メイン州 2 名、ロサンゼルス 2 名）、ロシア・サンクトペテルブルクへ 1 名、ウクライナ・キエフへ 2 名、メキシコ・プエブラへ 2 名、短期スポーツ型インターンシップとしてスイス・フリブールへ 10 名、計 26 名の学生を派遣しました。

学術・文化交流面では、恒例となっている夏期日本語講座（8 月 10 日～22 日）に 3 大学（台湾・中国文化大学、台湾・台湾首府大学、メキシコ・プエブラ大学）から 22 名の受講生を受け入れて開催しました。

<入試>

平成 27 年度入学者選抜は、大学院に体育学研究科、国際学部外国語学科にスペイン語・ブラジルポルトガル語専攻の選抜を加えて実施しました。

入試広報活動では、これまでの 3 回のオープンキャンパスと大学祭期間中の入試相談会に加え、3 月に初めて春のオープンキャンパスを開催しました。

また、10 月から天理教教会本部の月次祭にあたる毎月 26 日に、天理本通りの「てんだりーcolors」において入試相談会を開催しました。

<広報>

パブリシティに関しては、5 月 3 日の宇宙飛行士若田光一氏と雅楽部のコラボ演奏会や、10 月 1 日の明日香村の相互連携に関する協定書調印式など、プレスリリース計 11 件を行いました。また、2 月 25 日には、雅楽部の活動を中心として紹介した「ここはふるさと旅するラジオ」の NHK ラジオ公開生放送が、学生ホール前から行われ、放送後 NHK と市民とのふれあいミーティングも行われました。

大学広報誌「はばたき」を例年通り年 4 回発行しました。30 号と 31 号では、創立 90 周年を間

近に控える上から、特集を組みました。

大学要覧関係では「2015 大学案内」を全面改訂、「臨床人間学研究科案内」、「天理大学日本語専攻案内 2015」の改訂を行いました。また、大学院研究科、新専攻の設置に伴い、「大学院体育学研究科案内チラシ」、「大学院体育学研究科案内」、「スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻案内」を作成しました。

ホームページに関しては、6月27日に全面リニューアルを行いました。これに伴い、7月30日、31日に、教職員対象のWebサイト更新講習会を実施しました。

広告については、阪神甲子園球場看板広告、新聞広告や協賛広告など継続して掲出しました。本年初めての試みとしては、JR スポット広告（中吊り広告）を6月に4回、7月に3回近畿圏のJR 普通電車、快速電車で掲出しました。（内容は、創立90周年、大学院体育学研究科新設、スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻新設、2014 オープンキャンパス案内）また、大阪市営バスの側面シート広告を、8月15日から近鉄住吉営業所エリアで掲出しました。

創立90周年広報関連としては、創立90周年PR用ポスター、横断幕、のぼりなどを作成し学内に掲出しました。また「創設者の理念と未来への飛躍DVD 2015年改訂版」を作成しました。さらに、本学ホームページにも創立90周年特設サイトを設け、記念行事等の広報を行いました。

大学史資料調査プロジェクト関連では、大学史資料室の整理作業、4号棟4階倉庫の整理作業、資料調査と目録作成作業を進め、7月と9月に退職教職員から聞き取り調査を行いました。

<就職支援>

平成24年度に文部科学省から採択された「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」<テーマA>（平成24年度～平成26年度）の最終年度にあたり、海外インターンシップ制度の充実および同窓会組織との連携強化、教職員・学生の連携によるワークショップ型低学年次ガイダンスの実施等に取り組みました。さらに本年度より新たに採択された<テーマB>（平成26年度～平成27年度）では、滋京奈地域でインターンシップ等を推進する組織・団体等との連携の下、マッチングや専門人材の養成を目指して、「社風発見インターンシップ制度」の取り組みを進めました。

平成27年度卒業予定者から就職活動時期が後ろ倒しとなりましたが、進路・就職支援のための各種ガイダンスについては例年どおり実施し、3月の就職情報開示のスタートにあわせて、リクナビやマイナビが主催する大規模な合同企業説明会にバスを仕立て、学生の参加を促しました。

また、3月10日～12日の3日間、企業の人事・採用担当者を大学に招き、学内企業説明会（官公庁を含む）を開催しました。参加企業は154社、参加学生は延べ440名を数えました。

<施設・設備関係>

平成27年度に新設する大学院体育学研究科、外国語学科スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻の院生研究室や共同研究室を研究棟内に設置しました。また3号棟の国際交流センター準備室を留学生支援課南側に移動し、元の国際交流センター準備室を改装して「インターナショナル・カフェ（iCAFé）」を設置し、留学生と日本人学生とが交流できる場を設けました。

学修環境改善の上から、3号棟2階教室の学生用机・椅子の入れ替えと赤外線マイクの設置、4号棟4階教室に大型スクリーンを設置しました。また3、4号棟各教室に時計を設置しました。

学生食堂の椅子を赤と白の2色のものに入れ替え、イメージ向上を図りました。

情報システム関係では、老朽化したOSに対応するため、法人・大学のすべての事務用PCを入れ替えました。また、学生・教員用の認証サーバーとファイルサーバーを入れ替え、老朽化によるサーバーの不具合を回避しました。さらに柚之内・体育学部キャンパスのすべてのPC教室と4号棟PC自習室の情報機器の設備入替工事を行い、学生が最新のOSで学修できる環境を整えました。

<地域連携・地域貢献>

本学創立記念日である4月23日に、天理市と包括的連携に関する協定書を交わし、7回の連携推進会議を開催して、学生の「行政施策貢献制度」について検討しました。また、10月1日には明日香村と相互連携に関する協定を締結しました。明日香村とは、明日香小学校の「子どもわくわく教室」の地域ボランティア等各種交流事業について検討しました。

天理市教育委員会、奈良新聞社、奈良県大学連合などとの共催で5シリーズ計22回の公開講座を開催し、延べ1,179名の受講がありました。また、近畿圏内の高校での出張講義や高校生の大学来訪時の模擬授業などを、計26件実施しました。

また、3月26日に奈良教育大学と教員養成の高度化に関する連携協定書を締結し、本学卒業生が連携大学特別選抜(推薦入試)によって、奈良教育大学教職大学院へ進学する機会を設けました。

<その他>

天理大学ふるさと会(本学同窓会)との連携により、大学祭期間中の11月8日に「第5回天理大学ホームカミングデー」を開催し、約220名の卒業生、教職員が集い、盛会裏に終えることができました。

人権教育関係では、ヒューマンライツ助成制度による各学部・学科、各部局、学生の自発的な人権啓発活動を継続して行いました。

【天理図書館】

貴重資料・学術資料の収集・整理・保存に努め、善用に心がけました。

整理では、インターネット上での天理図書館所蔵資料の検索が可能となるように新収資料を随時公開しました。

また、昭和5年に開館して以来、同57年までに整理・収蔵された一般図書のカード目録遡及に本格的に取り組んだ3年目となりました。本年は、和漢古書約3,588点9,238冊を含む91,520冊の入力が完了し、これまでのところ和漢古書約10,000点27,000冊を含む349,000冊の入力が完了して利用者サービスの向上に繋がりました。特に和漢古書の遡及は、古典籍資料を多く所蔵する本館の使命ともいえ、学界各方面の利用に供することができました。

閲覧では、開架書架の図書を絶えず新整理図書と入れ替えるなど、見直し作業を行いました。

資料保存では、国宝『類聚名義抄』をはじめ、貴重資料を修復し、閲覧・複製等の利用に供せられるようになりました。

所蔵資料を広く一般に公開する上から、平成25年にロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS, University of London)において開催しました「天理図書館資料展」(1000 Years of the Art of Japanese Books)の出品資料を中心に、立教177年教祖誕生祭記念展「日本の書物—千年の美—」を企画して、4月17日から同27日にかけて開催しました。開館84周年記念展では、「手紙—筆先にこめた想い—」を10月19日から11月9日にかけて、また、東京天理教館では、天理ギャラリー第152回展「漢籍と日本人—中国古典籍の伝来と受容—」を5月18日から6月15日にかけて開催しました。天理ギャラリー展会期中の5月31日に、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授高橋智氏による記念講演「漢籍を支えてきた蔵書文化」を開催しました。

出版活動では、天理図書館報『ビブリア』第141号(5月刊)、同第142号(10月刊)のほか、開館84周年記念展、天理ギャラリー第152回展それぞれの展覧会図録を出版しました。

対外的な活動では、奈良県図書館協会大学・専門図書館部会の加盟館として県内の大学・専門図書館と連携、協力を図っていますが、部会長館として本館において企画委員会と総会を開催し、7月24日には、天理大学九号棟ふるさと会館を会場に奈良県図書館協会図書館研究大会を開催して、

中学・高校の司書教諭や大学図書館などから約 90 名の参加者がありました。本館からは、大学・専門図書館部会を代表して「貴重書図書館とコミュニティー」と題する発表をしました。

また、同部会の調査・研究委員会委員長校としても会議を 3 回開き、重複資料の有効活用事業や同協会公共図書館部会との連携について検討を重ねました。11 月 27 日には、奈良女子大学学術情報センター、東大寺ミュージアム、奈良国立博物館仏教美術資料研究センターにおいて研究集会(見学会)を開催し、約 20 名の参加者がありました。2 月 27 日には、奈良県立図書館において重複資料の有効活用事業を行い、奈良県立図書館および県内の 5 大学・専門図書館から集まった約 2,500 冊の図書のうち、17 の公共図書館等で約 560 冊をリユースしてもらいました。

施設・設備としては、2 階展示室の床置エアコンの取替工事を行いました。

【おやさと研究所】

本研究所創立 50 周年の記念として始めた公開教学講座を、10 月に公開教学講座開講 20 周年記念講演として、「天理教神学の輪郭と課題」、「天理教教理史的境位について」との 2 テーマで行いました。以降、11 月から 3 月まで、教理の基本と展開についてを二人一組で道友社ホールにおいて開催しました。その要旨は、「グローバル天理」、「天理時報」、「みちのとも」に掲載されました。

現代社会の問題に対応できる人材養成を目的とした「教学と現代」は、教祖 130 年祭までの 3 年間の企画として、平成 24 年度より「海外伝道の現状と課題シリーズ」と題して、海外にある本教の布教拠点の拠点長に、現地でリアルタイムに起こっている社会状況や布教伝道の姿を語ってもらい、あわせて本研究所にどのような後方支援を期待しているか、その要望を聴くという主旨で始めたもので、本年度はその第 3 回目を、ロシア・ウクライナ、中国、カンボジアなどの伝道地で活躍されている方を招いて開催しました。

定例の「研究報告会」は、毎月 1 回の開催を目指し、また、「伝道研究会」、「宗教研究会」は学内外の研究者の協力を得て開催しました。ことに「伝道研究会」は、前年度に引き続いて海外部の協力を得て、「文化伝道」を主題に開催し、「宗教研究会」は「同性愛と同性婚—宗教はどう受け止めるべきか」をテーマとして、識者を招いて、活発な討議を重ねています。

出版物としては、月刊誌「グローバル天理」をはじめ、年刊誌の「Tenri Journal of Religion」、「おやさと研究所年報」、その他「伝道参考シリーズ」、「グローバル新書」を発刊しました。なお、かねてから懸案であった『改訂 天理教事典』の再改訂と新たに天理教について一般に読んで頂けるような体系的書籍である『よむ・みる 天理教』の編集は、編集方針に基づいた内容について検討を加え、鋭意作業を進めています。

【天理参考館】

博学連携の充実を図るため、管内各学校や天理市内の小・中学校への当施設利用促進の働きかけを行いました。その結果、市内小学校教員を対象とした体験講座を初開催しました。また、単に展示資料の見学案内だけでなく、事前に各学校の先生と相談を重ねて収蔵資料の中に授業で活用できるものがあれば貸し出しを行うなど、学校教育充実の一助となるような取り組みも行いました。

企画展は、「近鉄電車展—日本最大の私鉄開業 1 世紀—」(4 月～5 月)、「はにわ大集合！」(7 月～9 月)、「台湾平埔族のものがたり—歴史の流れと生活文化の記憶—」(10 月～12 月)、新春展「縄文時代の天理—出土品で見る布留遺跡の縄文文化—」(1 月～3 月)、及び「みちのくの郷土玩具と出土品—東日本大震災復興支援展示—」(平成 23 年 7 月～)、スポット展「五月人形飾り」(4 月～5 月)などを開催しました。また、企画展関連イベントとして開催した記念講演会(4 回)、ギャラリートーク(展示解説/9 回)は好評でした。また、「近鉄電車展—日本最大の私鉄開業 1 世紀—」では、「硬券印刷実演と鉄道模型走行」を、「はにわ大集合！」では、会期前に「予習講座」(全 3 回)を実施しました。

天理ギャラリー展は、「古代東アジアの漆芸」（10月～11月）、「台湾庶民の版画・祈福解厄一幸せを願い、邪悪を祓う」（2月～4月）を開催しました。

このほかトーク・サンコーカン（公開講演会／7回）、長月講座「木と縄文人 森林資源に生まれた日本列島の先史文化」（全3回）、平成27年4月に開催する天理大学創立90周年記念特別展「ギリシア考古学の父 シュリーマン―初公開！ティリンス遺跡原画の全貌―」予習講座、ワークショップ「バリガムラン体験講座」、「クラシックギター講座」、「こどもおちばがえりイベント」、「折紙を楽しもう」、「木の勾玉作り」、お役立ち夏休み自由工作「ミラクルボックスを作ろう！」、「チャレンジ！縄文土器を作ろう」を開催しました。また、ミュージアムコンサート「参考館メロディュー」（天理教音楽研究会共催／10回）を継続して開催しました。

平成21年度から始めた寄贈資料の整理、登録業務を進めました。通常業務としては考古美術・生活文化資料の収蔵品および研究用図書の実質を図り、資料の調査研究、整理、修復・保存処理を行いました。

出版物としては、『天理参考館報』、『企画展図録』、「天理参考館ニュースレター」を刊行しました。

広報としては、Webサイトの内容充実に向けたリニューアル作業を進め、情報誌やマスコミへの情報提供、ポスター・ちらし等の発行など、館活動の情報発信を継続するほか、次年度に開催する特別展開催に合わせて記者発表を行い、広報活動の充実を図りました。

そのほか資料熟覧、資料写真掲載・映像取材などの協力を行い、また、来館者に喜んで頂けるような親切な接客、博物館情報の提供、館内の美化等に取り組みました。

【天理高等学校第一部（全日制）】

「こどもおちばがえり」ひのきしんには、前年を40名上回る757名の生徒が参加（内全期間参加58名）、また、「学生生徒修養会 高校の部」には自宅生26名が参加しました。前々年度より再開された「天理教少年会育成講習会・天理高校生の部」には、83名（前年72名）の生徒が参加し、子どもたちと接することの喜びや縦の伝道の大切さを学びました。1月には3年生400名全員が「おさづけの理」を拝戴しました。

初めての試みとして、用木コースと天理大学宗教学科との連携で、“体験天理大学”と銘打った活動を行いました。実際に大学へ足を運び、各学年で異なるテーマのもと、大学の先生から天理大学創設の思いや天理教原典、現代宗教などについて説明や講義を受け、有意義な時間を持つことができました。

教職員研修では、教祖130年祭に向けて、つとめとさづけの積極的な実践が求められる中、講師に澤井勇一氏（天理教敷土分教会長）を迎え、『信者の栞』を基に「教えの理」について話を聞き、つとめの理合いについての理解を深めました。

生徒・進路指導面としては、全教員が共通の認識を持って、指導に取り組めるよう、生徒指導部・信条教育部・人権教育部・学芸体育部などが、いじめの早期発見やクラブ活動における体罰根絶などといった現状に則した研修を企画し、8回にわたって行いました。また、教科指導の充実を図るため、9回の授業研究会を実施。また、奈良県立教育研究所の「研修講座」へ参加するなど、多く研修に教職員が参加しました。

進学・学習指導の面では、特に1類1、2年生で基礎講習の充実を図り、学力の底上げに取り組みました。また国公立大学を目指す生徒のために前々年度より始めた進学講習にも力を入れました。今春は本講習の受講生が初めて受験を迎え、センター試験には全類合わせて92名が出願しました。

通常の課外講習に加え、夏季・冬季講習、合宿勉強会、特設課外講習、土日を利用しての補習やセンター試験対策を行いました。合宿勉強会は兵庫県篠山市のアルパインローズビレッジを会場に、総勢90名が参加しました。充実した環境のもと、しっかりと学習に取り組みました。さらに新た

な取り組みとして、「夢ナビライブ」という企画に1、2年生約70名が参加しました。本企画は公私立大学の合同進学ガイダンスで、広い会場に多数の大学教授によるミニ講義や個別相談が用意され、生徒が自身の興味や関心に合わせて選べるため、参加者には非常に好評でした。

進学実績として、2類からは大阪大学、神戸大学、信州大学、富山大学、岐阜大学、鳥取大学、香川大学、徳島大学、長崎大学などをはじめ、17校の国公立大学に進学しました。なかでも奈良教育大学5名、大阪教育大学3名と複数の生徒が合格した学校もあり、現浪合わせて26名が国公立に合格しました。2類現役生70名のほぼ3人に1人が国公立大へ進学しました。また、関西大学13名をはじめ、多くの私立大学に延べ125名が合格しました。1類からは京都教育大学、大阪教育大学、香川大学、徳島大学、鳴門教育大学等8校の国公立大学に現浪合わせて9名が合格、進学しました。3類からは、法政大学、立命館大学、龍谷大学、京都産業大学、関西大学をはじめ私立大学を中心に進学しました。学校全体で国公立大学に35名が合格したのは5年ぶりとなります。また、天理大学(101名)、天理医療大学(23名)、その他の私立大学(223名)、短期大学、専門学校などを加えると、延べ506名が合格しました。

クラブ活動では、南関東を中心にして行われたインターハイにおいて、63年連続出場の柔道部男子が団体戦でベスト16となり、個人戦では81kg級の正木聖悟(3年)が準優勝、100kg級の古田伸悟(3年)が3位、73kg級の笠原大雅(1年)がベスト8に入賞しました。また、柔道部女子(15回目)、卓球部男子(シングルス部6年連続、ダブルスの部)、男子バレーボール部(5年ぶり)、剣道部(女子個人の部)がそれぞれ出場を果たしました。剣道部は20年ぶりの出場となりました。

春の選抜大会には、硬式野球部(3年ぶり)、柔道部男子、ホッケー部男子・女子、ラグビー部、バレーボール男子が出場しました。柔道部男子は、個人戦で笠原大雅(1年)が81kg級で準優勝を果たしました。ホッケー部は、男子が第3位となりました。

本年度末には軟式野球部が、24年度に続いて復興応援高校軟式野球交流試合を地元福島県の4校と行いました。被災地を実際に訪れ、現地の方と直に言葉を交わすことにより、生徒たちは野球ができる喜びを再確認しました。

文化系クラブでは、吹奏楽部が11月に行われた第15回全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜に14年連続出場し、横浜市長賞と準優勝を受賞しました。また、3月の第27回全日本高等学校選抜吹奏楽大会ではゴールデン賞に輝きました。美術部は第64回学展において、油絵部門1824名の応募の中から、船井昌生(3年)が「入賞」を受賞、また石田和瑚(3年)が「賞候補入選」となりました。バトン部は12月に開かれた全国大会に3年ぶり11回目の出場を果たし、銀賞を受賞しました。ダンス部は、高校ストリートダンス選手権で特別賞、日本高校ダンス部選手権冬季大会においてベスト8になりました。求道部(雅楽班・箏曲班・幼少年指導班)は帰参者が楽しく過ごしてもらえるよう、天理教教会本部西泉水プール野外ステージにおいて、「求道まつり～おぢばを賑やかに～」を開催しました。

全教職員に対して記名式の学校評価(自己評価)を実施し、これに生徒による評価を加え、学校としての在り方や生徒の実態を分析するとともに、学校評価の目的に相応しい取り組みができるよう、各分掌で成果と課題を整理し、次年度に向けた方策を示しました。

施設面では、本館1階女子トイレを改修しました。

【天理高等学校第二部(定時制)】

信条教育では、教祖130年祭の年祭活動として、4年生は4月に「ようぼくの集い」に参加し、1～3年生は5月2日陽気ホールでの西浦忠一先生を講師に開かれた集いに参加しました。また、職員も年祭に向けて職員月次祭まなびの充実など様々な面での取り組みを行いました。

婦人会総会では長畑真帆（1年）が新入会員の宣誓を行いました。夏の「こどもおぢばがえり」、お正月の「お節会」には、教職員・生徒がひのきしんに参加しました。平成27年3月8日には、3年生92人が「おさづけの理」を拝戴し、晴れて「よふぼく」となりました。

教育課程は、平成25年度から全ての教科で新学習指導要領が実施となり、評価規準の見直しを行ってまいりましたが、今年度から観点別評価を導入しました。

11月20日には「活力と魅力ある定通教育を目指して」との研究主題のもと、奈良県高等学校定時制通信制課程学習指導研究会が本校において開催されました。研究発表は田中千嘉子教諭が「クラス経営と学級通信の活用」と題して発表しました。研究授業は「国語」と「公民」の2教科で実施しました。

今年度から例年11月に実施していた「オープンスクール」を6月にも実施し、受験希望者への情報提供の場を年2回としました。参加者数は6月が133名、11月が304名でした。

生徒指導においては、「いじめ対策委員会」を設置するとともに4月には「いじめ防止基本方針」を策定しました。また、全校生徒対象の「いじめに関するアンケート」を年2回（6月・10月）実施するとともに、職員とつとめ先の方々を対象とした、いじめの未然防止・早期発見のための研修を行いました。

昨今の社会情勢に鑑み、生徒の自転車乗用中を含めた損害賠償保険の確認と見直しを行いました。農事部は、創立80周年を迎え、農事部内において記念行事を行いました。

運動系クラブの活動では、夏の全国大会に8競技121名が出場し、団体では軟式野球部が8年連続11回目の優勝、バスケットボール部女子が7年連続15回目の優勝、バレーボール部男子が5年ぶり6回目の優勝、同じく女子も9年ぶり10回目の優勝、ソフトテニス部が5年連続19回目の優勝、柔道部女子が初優勝しました。個人では柔道部女子軽量級で坂本笑子（3年）が優勝、陸上女子4×100メートルリレーで優勝と例年以上に活躍しました。

文化系クラブの活動では、書道部 庄原亜美（4年）が日本学書展で昨年の文部科学大臣賞に続き特賞を受賞しました。また、眞貝詩織（4年）が県代表として全国定通制生活体験発表大会に出場し、文部科学大臣賞を受賞、加えて全日制を含めた県の「食育作文コンテスト」でも最優秀賞に輝き、知事表彰を受けました。さらに県の「人権メッセージ」でも、杉山裕美（4年）が大賞を椿井栄美（4年）が優秀賞と、1位、2位を独占する形となりました。

施設面においては、陽心寮の屋内消火栓配管に漏水があり改修を行いました。トイレの改修は本年度で終了しました。

学校評価については、研究授業等教科内での研修が定着し、評価が上がりました。半面、指導技術の向上にまだまだ足りなさを感じるという評価があり課題となりました。

【天理中学校】

教祖130年祭へ向かう2年目の年でありました本年度も、生徒会から全校生徒に「朝のおつとめで拍手をそろえよう」と呼びかけ、おつとめに重点をおいた取り組みを行いました。学校全体として「毎朝の学校参拝」や「ひのきしん活動」に、教職員生徒ともに勇んで意欲的に取り組みました。また、「おさづけの取次ぎ」や「お願いづとめ」も、意識の高まりとともに積極的な実践が学校生活の多くの場面で見られました。今後も、教職員自らが「よふぼく」であるという自覚をしっかりと持ち、努力を重ねたいと考えています。

授業内容の充実や教員の資質向上については、本年度も外部講師を招いての公開授業を行いました。3年目となる本年度は、2学期に「数学科」が公開授業と指導・助言をいただく研修を実施、前年度同様、市教委の指導主事や市内公立中学校の数学科教員にも参加いただきました。また、県や市主催の「研修講座」や「授業研修」へも、例年同様に参加しました。

学校生活の上では、「いじめのない学校生活をめざす」ということを重点目標に加え、取り組み

ました。例年のようにいじめに関するアンケートを実施する中、見えてきた問題点については、各クラスや学年、生徒指導部会で細かい部分まで見逃さずに対応できるよう心がけるとともに、問題発生時には、学校全体が組織として動くよう心がけ、取り組みました。今後も、教職員が「いじめは絶対に許さない」という意識をもって指導にあたります。また、「礼儀正しい規律のある学校」として、取り組み切れていない部分を見逃さず、全教職員が厳しさをもち取り組むよう努めます。

学習面では、各学年が朝の会の時間を使って、読書や学習に取り組むことで、1時間目から真剣に落ち着いて授業に向かえるよう指導しました。次年度も継続して取り組み、生徒一人ひとりの学習への意識を高め学力を向上させていくことを目標に、基礎基本に重点をおいた指導を行います。

また、3年生の高校入試では多くの生徒が希望する進路を開拓実現できました。引き続き、管内の高等学校との連携を密にとり、個々の徳分を生かせる進路開拓ができるよう進路指導の充実を図りたいと考えています。

不登校傾向の生徒やオアシスルームに入る生徒、また、近年増加傾向にある、心に問題を抱える生徒たちへのケアについては、教育相談委員を中心に、各担任や学年、養護教諭やカウンセラー、天理大学院生であるオアシスフレンドとの連携を密にしながら状況把握に努め、カウンセリングにつなげるなどのサポートを行いました。担任や副担任による家庭訪問も必要に応じて繰り返し実施しました。

部活動では、野球部が奈良県新人大会で優勝し、近畿大会では準優勝。そして18年ぶりに全国大会への出場を果たしベスト8に輝きました。さらに、奈良県選抜大会で3位、県総体で優勝、近畿総体ベスト8に進出するなど、素晴らしい活躍の1年でした。また、ラグビー部、飛込部、柔道部、水泳部も全国大会への出場を果たしました。水泳部は、県総体で男子が3連覇、女子が5年ぶりの優勝を果たしました。男女そろっての優勝は実に31年ぶりであり、平成に入ってからでは県下でも初めての快挙を成し遂げました。箏曲部が全国コンクールで3度目の銀賞を受賞しました。

施設面としては、PC教室の更新、西トイレの改修、学校南側フェンスの改修を行いました。

【天理小学校】

信条教育については、本年度も年3回の「月次祭講話」や信条の授業を通して教員の信仰姿勢を子どもたちに伝えることに努めました。また、全ての教員が「信条授業案」を作成した上で、信条の授業を公開するという実践を行いました。授業は、当該学年の教員が中心となって参観及び事後検討会を行い、今後の授業に資するようになりました。3年前に作成した「信条授業案集」を活用することにより、児童にはより身近で前向きな学びとなりました。

教職員の学校評価・自己点検については、前々年度より「教育活動に向けての重点目標と目標達成の方策」として運営計画の冒頭に明示し、教職員が常に意識できるようにしました。その結果、「A:きちんとできている」、「B:ほぼできている」の評価を合わせて、20項目中、7項目が96%以上でした。また、87～95%と評価が安定している項目も8つに及んでいます。一方、教祖130年祭に向けて「においがけ・おたすけに努める」という信仰姿勢については手厳しい評価がなされ、今後の対応が必要となりました。

基礎基本に取り組むことのできる「天小タイム」の活用については、期間が4月～10月までに限られることから、以前に比べると十分に機能しませんでした。学力テストの結果の検証からも、以前に比して評定の1・2がかなり増加しました。今後は、「天小タイム」以外で、基礎基本を徹底することも視野に入れた対応を検討します。

「信条教育の実践Ⅱ」という大テーマに基づき、3つの中テーマ、10の小テーマを設定して校内研修を実施しました。上記で触れたとおり、全教員が、学年別・月別に定めた「信条教育主題」に沿って授業案を作成した上で公開授業を行い、お互いに研鑽を積みました。また、国語科については「話す力・聞く力を身につけさせる指導法の工夫」というテーマのもと、研究授業を行いました。

全員が参加しての事後検討会では、建設的な意見が多く出され、研修の成果が現れていました。

前年度に続いて、特別支援のあり方についての研修を、講師を招いて行いました。また、今後の研修に役立てる上から、本年度も「実践記録集」を発行しました。

生徒指導については、月に一度開く「教育相談委員会（いじめ・不登校対策、特別支援教育）」において、気がかりな児童についての報告がなされます。それを受けて、職員会議で全教員がその情報を共有し、担任や当該学年に限らず、学校全体として関心を寄せることで健全な育成に努めました。

施設面では、東トイレの改修を行いました。また、北庭の樹木を伐採し、登下校時の安全を確保しました。

【天理幼稚園】

教祖 130 年祭に向けて改めて創立の精神を心に治め、親神様のお恵みの中で生かされていることに感謝し、子ども達のよき手本となるよう一手一つに勇んで務めました。

教育体制としては、園児一人ひとりの現状やクラスでの様子を常に教師間で報告し合い、全教師による共通理解のもと、その子に応じた援助ができる体制を取りました。特に、支援を要する園児に対しては、学期ごとに特別支援児個別指導計画を作り、課題点や配慮すべき点を明確にした上で援助にあたりました。

教員研修については、文科省の幼稚園教育理解推進事業協議主題 3 に挙げられた「人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わうようになるための環境の構成や教師のかかわりについて」に基づいて教師全員が公開保育などの研修を行い、課題に取り組みました。11 月には天理市西中ブロック（前裁幼稚園・二階堂幼稚園・山田子ども園）研修会を当園で開催し、当園の保育を公開するとともに、参加された各園の先生方との討議を行い、意識の向上を図りました。また、教職員が様々な研修会に参加し、研鑽を積みました。

その他、信条教育を行う上で、月次祭行事のテーマに沿った教童話の脚本を作成しました。また、天理小学校と連携をとり、生活科授業「秋のフェスティバル」参加や持久走試走見学など、特に 1 年生と年長児の交流を深めることに努めました。

保護者及び教員対象に学校評価を実施しました。どちらも高い評価を受けましたが、自由筆記において、意見や要望が出されました。真摯に受けとめ、改善に向けて取り組みに努めました。

環境面については、通園バスを買い替えました。また、専門業者による遊具の安全点検、木造園舎職員室前廊下と業務員宅の雨漏りの修理を行い、園庭の滝山を囲む木製フェンスが劣化していたため、プラスチック製の多目的フェンスに取り替えました。ペンキの劣化が進んでいたコンクリート園舎西側の階段及び手すり、各組の下駄箱を業者によって塗り替えました。

3. 財務の概要

(1) 平成 26 年度決算の概要

平成 26 年度決算について、予算と対比してその概要を報告します。

◆ 資金収支計算

資金収支計算書は、当該年度における教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容、並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。すべての収支内容を明らかにするとは、実際の収入・支出に限らずその会計期間に入金又は出金すべき額、すなわち未収入金や未払金も収入・支出に含め、授業料免除等のお金の動きが実際にはない活動も含めることとなります。また、支払資金のてん末とは、支払資金の前年度末残高、入金、出金及び年度末残高を明らかにすることです。従って収入には前年度繰越支払資金を含めて計算し、支出には次年度繰越支払資金を含めて計算することとなり、収入の部合計と支出の部合計は一致します。

資金収支計算書は企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いものですが、個々の収入金額、支出金額は前受金、未収入金、未払金、前払金等で処理した費用も含まれていますので、必ずしもキャッシュ・フローとはなっていません。しかし、それら前受金等を調整する「調整勘定」を設けることにより、総額としてはキャッシュ・フローを示しています。

(単位：千円)

●収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,745,644	3,761,592	△ 15,948
手数料収入	69,675	69,806	△ 131
寄付金収入	2,744,400	2,749,941	△ 5,541
補助金収入	1,193,846	1,226,230	△ 32,384
資産運用収入	45,683	54,093	△ 8,410
資産売却収入	0	185	△ 185
雑収入	399,952	401,512	△ 1,560
前受金収入	480,150	457,796	22,354
その他の収入	322,100	396,543	△ 74,443
資金収入調整勘定	△ 823,550	△ 1,003,160	179,610
前年度繰越支払資金	4,774,108	4,774,108	
収入の部合計	12,952,008	12,888,646	63,362

●支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費支出	6,098,269	6,095,073	3,196
教育研究経費支出	1,406,316	1,356,565	49,751
管理経費支出	357,935	337,600	△ 9,665
施設関係支出	27,900	23,737	4,163
設備関係支出	200,880	200,706	174
資産運用支出	710	1,028	△ 318
その他の支出	951,360	957,790	△ 6,430
資金支出調整勘定	△ 1,223,000	△ 1,234,118	11,118
次年度繰越支払資金	5,131,638	5,120,265	11,373
支出の部合計	12,952,008	12,888,646	63,362

収入の部では、学生生徒等納付金収入は約 1600 万円の収入超過の 37 億 6159 万円となりました。手数料収入は予算に対して 13 万円増額となっています。寄付金収入は宗教法人天理教より 27 億円、その他の寄付金は 100%出資の事業会社「キャンパスサポート天理」の受配者指定寄付金、用途指定寄付金及び一般寄付金を合わせて 4994 万円ありました。補助金収入は国庫補助金収入が耐震対策緊急促進事業費補助金の増額により見込みを上回り 6 億 1698 万円となりました。地方公共団体補助金収入も見込みを上回り、1988 万円予算額より増額の 6 億 785 万円となり、補助金合計は 12 億 2623 万円となりました。資産運用収入は受取利息・配当金収入、施設設備利用料収入とも見込みを上回り 841 万円の収入超過となっています。雑収入は私立大学退職金財団等交付金収入が予算どおり、また、その他の雑収入では文部科学省科学研究費補助金間接経費等が増えたため収入超過となりました。当年度収入合計は前年度の 82 億 4384 万円より 1952 万円増加して 82 億 6336 万円となり、前年度繰越支払資金等を加えた収入の部合計では 128 億 8865 万円となりました。

支出の部では、人件費支出がほぼ予算額通りの 60 億 9507 万円となりましたが、退職金が増額したため、前年度より 2 億 3482 万円増額しています。教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出、設備関係支出に計上された主な工事、備品等の整備は以下のとおりです。

施 設	内 容
大 学	◇白川ラグビー場シャワー棟新築工事 ◇認証サーバーリプレイス ◇情報ライブラリー図書情報システム入替 ◇体育学部柔道場窓枠改修工事 ◇ロシア女性誌コレクション(マイクロフィッシュ)購入 ◇研究棟非常用蓄電池設備更新工事 ◇柚之内・体育学部キャンパスPC教室等情報機器設備入替 ◇情報ライブラリー分室改修工事 ◇大学院体育学研究科共同研究室改修工事 ◇インターナショナル・カフェ設置に伴う什器及び備品購入

施設	内 容
図書館	◇電話交換システム機器取替 ◇2階展示室床置エアコン取替 ◇特別図書「剪燈餘話」「森鷗外書簡 正宗敦夫宛」「レメリン 小宇宙鑑」「森鷗外書簡 渋江終吉宛」「花の露 秋・冬」「天正使節記」他購入 ◇国宝「類聚名義抄」保存修理
高等学校	◇本館1階女子トイレ改修工事 ◇別館棟系統ガスヒートポンプエアコン修理 ◇北池グラウンド防球ネット嵩上げ設置工事 ◇北寮・陽心寮、屋内消火栓管及び連結送水管改修工事 ◇北寮4階生徒室・幹事室・講堂スチール窓改修工事 ◇北寮厨房サッシ改修工事 ◇陽心寮5階、6階小便器取替工事
中学校	◇PC教室更新工事 ◇校舎等耐震診断手数料 ◇西トイレ改修工事 ◇ティンパニー購入 ◇電子黒板購入 ◇南側フェンス改修工事
小学校	◇東トイレ改修工事 ◇校舎等耐震診断手数料 ◇北庭樹木の伐採・剪定
幼稚園	◇通園バス購入

資金支出は合計で128億8864万円となり、そのうち次年度繰越支払資金は51億2026万円となりました。

◆ 消費収支計算

消費収支計算は企業会計における損益計算の仕組みに類似しています。すなわち帰属収入（学校法人の負債とならない収入＝収益）から基本金組入額（教育・研究を継続的に維持向上させるために必要な土地、建物、機器備品、図書等を取得した金額＝資産）を差し引いた消費収入と消費支出（消費した資産の価額及び用役の対価＝費用）を比較して、その均衡の状態、収入が超過しているか、あるいは支出が超過しているかを判定するものです。（損益計算書では計上されない資本的支出が、消費収支計算書では基本金組入額として計上されている点が主な相違点です。）

学校法人は企業と異なり収益の獲得を目的とするものではありませんので、学校法人会計には損益の計算という概念はありません。教育研究内容に見合った適正な収入を得て、教育研究活動の機会と場を永続的に提供することを目的としています。消費収支計算書の消費収入と消費支出が長期的にはつり合い、必要な資産が維持されることが健全な学校経営として望まれるところです。

（単位：千円）

●消費収入の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,745,644	3,761,592	△ 15,948
手数料	69,675	69,806	△ 131
寄付金	2,799,330	2,762,585	36,745
補助金	1,193,846	1,226,230	△ 32,384

資産運用収入	45,683	54,093	△ 8,410
資産売却差額	0	185	△ 185
雑収入	399,952	571,743	△ 171,791
帰属収入合計	8,254,130	8,446,234	△ 192,104
基本金組入額合計	△ 51,900	△ 201,936	150,036
消費収入の部合計	8,202,230	8,244,298	△ 42,068

●消費支出の部			
科 目	予 算 額	決 算	差 異
人件費	6,098,869	6,007,040	91,829
教育研究経費	2,077,804	2,047,850	29,954
管理経費	390,019	400,150	△ 10,131
資産処分差額	184,200	59,330	124,870
消費支出の部合計	8,750,892	8,514,370	236,522

当年度消費支出超過額	548,662	270,072	
前年度繰越消費支出超過額	10,770,748	10,770,748	
翌年度繰越消費支出超過額	11,319,410	11,040,820	

【用語（科目）の説明】

- ① 学生生徒等納付金……授業料、入学金、実験実習料、維持費、教育設備充実費等
- ② 手数料……入学検定料、試験料、証明手数料等
- ③ 寄付金……宗教学法人天理教よりの回付金、使途指定寄付金、一般寄付金等
- ④ 補助金……私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等
- ⑤ 資産運用収入……預金、有価証券等の利息、配当金等
施設設備の賃貸料収入
- ⑥ 資産売却差額……資産売却収入がその帳簿残高を超えた場合の超過額
- ⑦ 雑収入……私立大学退職金財団等交付金収入、その他の雑収入
- ⑧ 帰属収入……すべての収入のうち、借入金等の負債の増加とならない、本来的に学校法人に帰属する収入
(資金の収入を伴わない現物寄付を含む)
- ⑨ 基本金組入額……取得した建物、機器備品等の固定資産のうち、帰属収入をもって充当した額
- ⑩ 人件費……教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費
役員報酬、退職給与引当金組入額
- ⑪ 教育研究経費……教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額
- ⑫ 管理経費……教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額

- ⑬ 借入金等利息……………借入金に係る利息
- ⑭ 資産処分差額……………固定資産を廃棄した場合の除却損

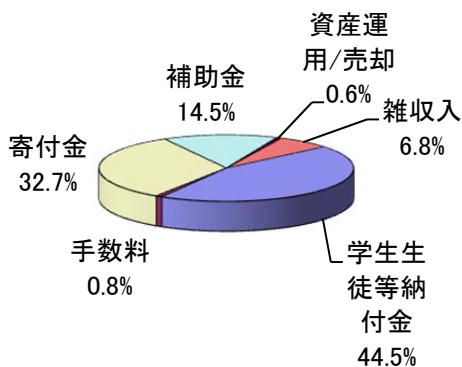
《前述の資金収支と共通の科目があるので、消費収支特有のものについて説明します。》

消費収入の部では、帰属収入合計が予算比 2.33%増の 84 億 4623 万円（前年度 2.26%〈1 億 8626 万円〉の増）となりました。基本金組入額合計が、予算比 189.09%増の 2 億 194 万円となり、消費収入合計は予算比 1.09%増の 82 億 4430 万円（前年度比では 1.09%〈8904 万円〉の増）となりました。消費収入特有の現物寄付としては大学後援会等より図書の受贈、文部科学省科学研究費補助金による備品購入があり、寄付金は 27 億 6259 万円（前年度比では 2.37%〈6713 万円〉の減）となりました。また雑収入に大学及び研究所の図書棚卸調査による増加 1 億 7023 万円を計上しています。消費支出の部では、人件費に退職給与引当金繰入額 8 億 6335 万円を含み、資金収支計算での人件費支出との差額は 8803 万円となっています。教育研究経費に 6 億 682 万円、管理経費に 2352 万円の減価償却費を含んでいます。消費支出の部合計は 85 億 1437 万円（前年度比では 1.17%〈9865 万円〉の増）となりました。

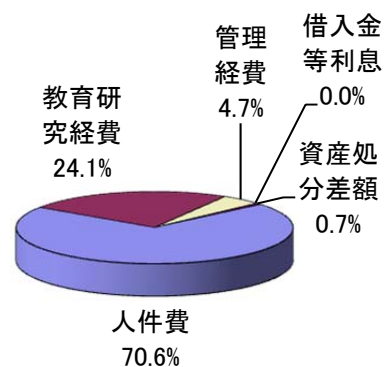
当年度消費収支差額は 2 億 7007 万円の消費支出超過額（前年度は 2 億 6046 万円の消費支出超過額）となり、前年度繰越消費支出超過額を加えた翌年度繰越消費支出超過額は 110 億 4082 万円となりました。

《消費収支計算のグラフ》

帰属収入の構成比



消費支出の構成比



◆ 貸借対照表

貸借対照表は、当法人の財政状態を明示するために、年度末に保有するすべての、資産、負債、基本金および消費収支差額を前会計年度末の額と比較して一覧表示したものです。資産の部は、貸借対照表の借方に表示され、学校法人天理大学に投入された資金がどのように使われているかを表示します。貸方に表示される負債、基本金、消費収支差額はその資産が他人の資金（負債）によって賄われているか、自己資金（基本金、消費収支差額）で賄われているか、すなわち資金の源泉を表示しています。

企業会計という資本という概念がないので、基本金の部（基本金として組み入れている金額）と消費収支差額の部（消費収支計算で消費収入から消費支出を差し引いたものの会計年度末までの累計額）が貸方に計上されることが企業会計のものとは異なる点です。

また、記載金額は期末時点の財産価値ではなく取得した当初の価額を基準とし（取得原価基準）、建物、機器備品等の時の経過によりその価値を減少させる固定資産の貸借対照表計上額は、減価償却をおこなった後の金額となります。

（単位：千円）

●資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	26,254,794	26,628,652	△ 373,858
有形固定資産	24,474,156	24,849,042	△ 374,886
その他の固定資産	1,780,638	1,779,610	1,028
流動資産	5,663,159	5,102,428	560,731
資産の部合計	31,917,953	31,731,080	△ 186,873

●負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	997,026	1,085,060	△ 88,034
流動負債	1,892,649	1,549,606	343,043
負債の部合計	2,889,675	2,634,666	255,009

●基本金の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	39,277,451	39,076,543	200,908
第3号基本金	141,647	140,619	1,028
第4号基本金	650,000	650,000	0
基本金の部合計	40,069,098	39,867,162	201,936

(2) 経年比較

財務状況について、収支計算書及び貸借対照表の大科目又は主な科目の過去5年間の推移を記載します。

(単位：千円)

資金収支計算書					
●収入の部					
科 目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
学生生徒等納付金収入	3,289,724	3,394,678	3,591,305	3,761,406	3,761,592
手数料収入	78,616	77,457	76,454	69,896	69,806
寄付金収入	3,258,298	3,100,250	2,909,550	2,813,579	2,749,941
補助金収入	1,222,293	1,290,385	1,210,555	1,186,075	1,226,230
資産運用収入	55,280	53,203	56,411	57,482	54,093
資産売却収入	104,640	100,000	140,000	0	185
雑収入	248,903	440,927	301,932	355,401	401,512
前受金収入	505,340	526,665	498,605	472,825	457,796
その他の収入	299,592	492,630	374,870	258,287	396,543
資金収入調整勘定	△ 739,670	△ 880,210	△ 780,319	△ 819,890	△ 1,003,160
前年度繰越支払資金	3,937,418	4,169,107	4,698,349	4,558,985	4,774,108
収入の部合計	12,260,434	12,765,092	13,077,712	12,714,046	12,888,646

●支出の部					
科 目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
人件費支出	6,034,553	6,441,977	5,813,866	5,860,258	6,095,073
教育研究経費支出	1,171,301	1,167,167	1,189,445	1,452,858	1,356,565
管理経費支出	386,706	365,987	325,683	345,677	367,600
借入金等利息支出	5,870	4,288	2,705	1,123	0
借入金等返済支出	100,000	100,000	100,000	100,000	0
施設関係支出	65,030	87,233	320,736	54,416	23,737
設備関係支出	236,194	192,498	194,447	230,693	200,706
資産運用支出	96	109,078	100,467	1,402	1,028
その他の支出	922,438	900,861	1,316,192	844,814	957,790
資金支出調整勘定	△ 900,861	△ 1,302,346	△ 844,814	△ 951,304	△ 1,234,118
次年度繰越支払資金	4,169,107	4,698,349	4,558,985	4,774,109	5,120,265
支出の部合計	12,260,434	12,765,092	13,077,712	12,714,046	12,888,646

(単位：千円)

消費収支計算書					
●消費収入の部					
科 目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
学生生徒等納付金	3,289,724	3,394,678	3,591,305	3,761,406	3,761,592
手数料	78,616	77,457	76,454	69,896	69,806
寄付金	3,271,458	3,250,441	2,919,595	2,829,715	2,762,585
補助金	1,222,293	1,290,385	1,210,555	1,186,075	1,226,230
資産運用収入	55,280	53,203	56,411	57,482	54,093
資産売却差額	393	0	5,000	0	185
雑収入	248,903	649,935	301,932	355,401	571,743
帰属収入合計	8,166,667	8,716,099	8,161,252	8,259,975	8,446,234
基本金組入額合計	△ 308,159	△ 204,849	△ 451,833	△ 104,722	△ 201,936
消費収入の部合計	7,858,508	8,511,250	7,709,419	8,155,253	8,244,298

●消費支出の部					
科 目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
人件費	5,851,321	6,220,850	5,913,750	5,854,909	6,007,040
教育研究経費	1,909,723	1,858,820	1,885,261	2,155,173	2,047,850
管理経費	425,029	622,004	361,218	380,013	400,150
借入金等利息	5,870	4,288	2,705	1,123	0
資産処分差額	36,114	64,397	45,855	24,504	59,330
消費支出の部合計	8,228,057	8,770,359	8,208,789	8,415,722	8,514,370
当年度消費支出超過額	369,549	259,109	499,370	260,469	270,072
前年度繰越消費支出超過額	9,382,250	9,751,799	10,010,909	10,510,279	10,770,748
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	9,751,799	10,010,908	10,510,279	10,770,748	11,040,820

(単位：千円)

貸借対照表					
●資産の部					
科 目	22年度末	23年度末	24年度末	25年度末	26年度末
固定資産	28,037,263	27,373,143	27,088,166	26,628,652	26,254,794
流動資産	4,366,395	5,078,625	4,820,726	5,102,428	5,663,159
資産の部合計	32,403,658	32,451,768	31,908,892	31,731,080	31,917,953

●負債の部					
固定負債	1,411,651	1,090,525	1,090,408	1,085,060	997,026
流動負債	1,638,048	2,061,544	1,566,322	1,549,606	1,892,649
負債の部合計	3,049,699	3,152,069	2,656,730	2,634,666	2,889,675
●基本金の部					
第1号基本金	38,317,081	38,521,855	38,973,223	39,076,543	39,277,451
第3号基本金	138,677	138,753	139,218	140,619	141,647
第4号基本金	650,000	650,000	650,000	650,000	650,000
基本金の部合計	39,105,758	39,310,608	39,762,441	39,867,162	40,069,098
●消費収支差額の部					
翌年度繰越消費支出超過額	9,751,799	10,010,909	10,510,279	10,770,748	11,040,820
消費収支差額の部合計	△ 9,751,799	△10,010,909	△ 10,510,279	△ 10,770,748	△ 11,040,820
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	32,403,658	32,451,768	31,908,892	31,731,080	31,917,953

(3) 主な財務比率の推移

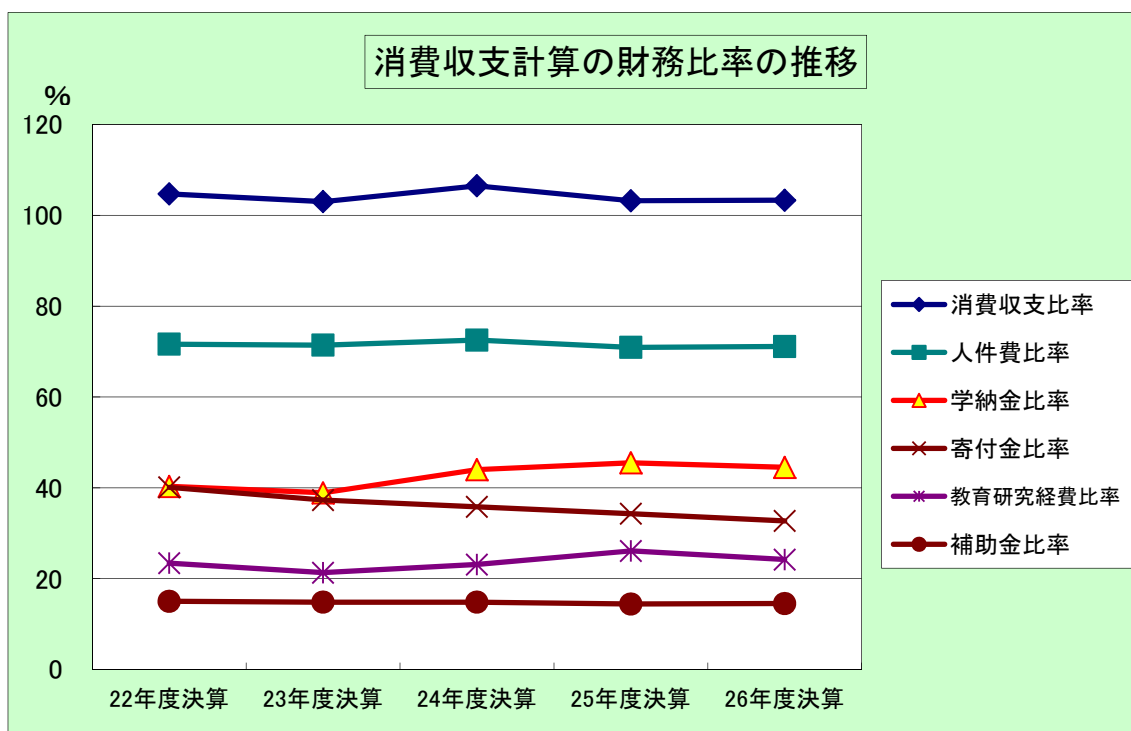
主な消費収支計算書関係比率と貸借対照表関係比率の過去5年間の推移を掲載し、一部の比率についてグラフにより概要を説明します。

(単位：%)

比 率	算 式 (×100)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	71.6	71.4	72.5	70.9	71.1
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	177.9	183.3	164.7	155.7	159.7
教育研究費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	23.4	21.3	23.1	26.1	24.2
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	5.2	7.1	4.4	4.6	4.7
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	0.1	0	0	0	0
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	△0.8	△0.6	△0.6	△1.9	△0.8
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	104.7	103.0	106.5	103.2	103.3

学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	40.3	38.9	44.0	45.5	44.5
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	40.1	37.3	35.8	34.3	32.7
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	15.0	14.8	14.8	14.4	14.5
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	90.6	90.3	91.7	91.7	90.9
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	266.6	246.4	307.8	329.3	299.2
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	10.4	10.8	9.1	9.1	10.0
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.2	99.4	99.7	100.0	99.9

「総資金」は負債＋基本金＋消費収支差額を、「自己資金」は基本金＋消費収支差額をあらわす。



消費収支比率は100%を恒常的に上回り、26年度では3.3ポイント上回りました。人件費比率は22年度から横ばい状態ですが、26年度は0.2ポイント上がりました。学生生徒等納付金比率（学納金比率）は学生生徒等納付金が前年度から横ばいで、補助金が増加したため、26年度は1.0ポイント下がり、寄付金比率は1.6ポイント下がりました。教育研究経費比率は1.9ポイント下がり、管理経費比率は0.1ポイント上がり増加傾向となっています。補助金収入は昨年度より増額となり、補助金比率は0.1ポイント上がりました。